

マスキングの要は塗料ミストの誘導

塗料ミストへの対処

ブラサフや上塗りを吹き付ける前のマスキングには、高い技術と判断力を要するケースが多い。その要因となるのが、塗装時にスプレーガンから噴霧される塗料のミスト。

塗装したミストがテープやマスキングフィルムを通過して車内に侵入してしまった場合、意図していない部位へ付着してザラつきや色ムラになってしまう。しかし、作業が終了するまでミストを防げたかどうかを確認するのは難しい。ゴミ・ブツの塗膜への付着と同様に事前の予防が重要と言える。そ

のため、ミストをいかに効果的に防止あるいは誘導するかが、仕上がり品質の高さや後工程の時間短縮には課題となる。

塗料ミストの防止では、塗装個所以外の車全体をフィルムで覆う際に、その内側に紙を入れたり外側にマスキングペーパーをテープで貼るのが定石。静電気によるミストの付着を抑制する帯電防止仕様のシートや、シート自体が塗料ミストを吸着する製品も上市されており、塗装ブース内での空気の流れがある塗装環境で使用すればより高い防止効果が得られるだろう。

フィルムやマスカ（テープ+ペー

パー）を貼る際には、表面のたるみは極力避ける。塗料ミストが溜まる原因となり、はがす際に不必要な箇所へ塗料が付着するリスクとなる。フィルム単体では、塗料ミストを透過する可能性はゼロではなく、スプレーマスキングをフィルム下に塗布する技術者も少なくない。

折り返しやボカシ塗装用テープを用いる場合など、パネル際やパネル同士のすき間や裏側にテープ端を浮かせて空間を確保するのは、塗料ミストの誘導に当たる。この種のテープを用いたマスキングでは、どのラインに貼るのが後工程の磨きにも影響する。また現場では、「マスキング時間が十分に確保できず塗装しなくてはならない時には、少量のマスキングであえて後処理の楽な個所にミストを飛ばす」といった対応も聞かれた。

マスキングテープをはがす際の注意点

はがす際にもマスキングは気を抜けない。フェンダーやルーフのモールなど、特に黒い樹脂系素材の部位ではテープのノリが残ってしまう場合がある。鋼板のツルツとした表面とは異なり、微細な凹凸や目に見えないわずかな穴（多孔性）があるため、テープの接着成分がそれらの表面の穴に入りこむ。アンカー効果が生じ、はがれにくい状態になるケースも考えられる。

多くの自補修の現場では、耐溶剤性のテープが使われているため、溶剤系



2トーンルーフ塗装時のマスキングは、仕上がりでカラーの境目が明確になるため見切りテープをていねいに貼る必要がある

後の塗装工程を理解した 最適なマスキングを

BIC（大阪府豊中市）

ホンダN-BOXカスタム、ボデーカラーはNH-883Pプラチナホワイトパール（フロントア及び開口部は一部マスキング済）。損傷は左リアドア下部、溶剤系塗料を用いた隣接パネルへのブロック・ボカシ塗装工程に留意しながら、パネル裏の塗料ミスの段差に注意し、左側の両ドア及びテールゲートとその周囲をマスキングする。

総作業時間（塗装前まで）：1時間27分

使用マスキング材：20mm×18m 3本、40mm×18m 1本、100mm×10m 0.5本、すき間用テープ4m、フィルム6m、マスキングペーパー（テープ付き）×7m、マスキングペーパー×6m



Before



After

テールゲート及び周囲

作業時間：計23分 テールゲート（ステー部）1分+その周囲22分



1 ゲートを取り外さず閉じた状態で塗装するため、内側に付いているステー部にもマスキングする



2 紙の片側にテープを貼り、ステーを緩く巻き込むように端を余らせながら紙を一周させて筒状にする



3 緩く筒状にすることで、テールゲートを閉じた際にも伸縮部とステー端（ゲート側）を覆える



4 リヤコンビネーションランプを取り外した部位には、折り返しテープをプレスラインに沿って貼る